

健康長寿へ検査法研究

弘大とシスメックス 講座開設式



開設式に臨む（左から）廣田弘大大学院医学研究科長、福田眞作学長、シスメックスの吉田常務執行役員CTO、佐藤利幸中央研究所長

弘前大学と血液検査装置大手のシスメックス（本社神戸市）は24日、共同研究講座「健康長寿デザイン講座」の開設式を弘大で行った。

弘大が弘前市岩木地区で約20年行っている健診で蓄積したビッグデータを活用し、認知症や心疾患、フレイル（加齢に伴う心身の

機能低下）の早期発見や最適な治療薬の選択を可能にする検査方法の開発に取り組む。

シスメックスは1968年創立で、採血した血液中の赤血球や白血球の数などを調べる装置で世界トップクラスのシェアを誇る企業。2023年6月には、血液検査から脳内にたまったアルツハイマー病の原因物質「アミロイドベータ」を調べる試薬を販売している。

開設式に臨んだシスメックスの吉田智一常務執行役員最高技術責任者（CTO）は「認知症やフレイルの予防や適切な治療法の選択を可能にする検査の開発に取り組みたい」と述べた。弘大大学院の廣田和美医学研究科長は「今後、岩木健診で睡眠状況も測定したいと考えている。睡眠を取るとアミロイドベータが減るといふデータがあり、さまざまに分野で協力したい」と期待を込めた。講座の期間は25年12月31日までの2年間。（工藤貴光）